



平成24年2月9日

各 位

会 社 名 株式会社ウィル  
 代 表 者 名 代表取締役社長 岡本 俊人  
 (コード番号：3241)  
 問 合 せ 先 代表取締役 栗野 泉  
 役 職 ・ 氏 名  
 電 話 0797-74-7272

## 通期業績予想及び配当予想の修正、並びに繰延税金資産計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成23年2月18日に公表した連結業績予想及び平成23年4月15日に公表した個別業績予想、並びに配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成23年12月期通期業績予想の修正（平成23年1月1日～平成23年12月31日）

##### (1) 連結業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,935	227	176	157	円 銭 13,957 98
今回修正予想 (B)	3,045	247	195	248	21,959 86
増減額 (B - A)	△890	19	19	90	—
増減率 (%)	△22.6	8.8	11.0	57.3	—
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	2,595	168	101	89	7,930 13

##### (2) 個別業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	2,566	26	72	62	円 銭 5,492 16
今回修正予想 (B)	2,624	137	173	231	20,436 94
増減額 (B - A)	58	110	101	168	—
増減率 (%)	2.3	413.2	138.7	272.1	—
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	2,474	98	89	77	6,832 74

#### 2. 業績予想修正の理由

##### ①連結業績

当連結会計年度におきましては、前年度より取り組んでまいりました事業収益構造転換による収益力の強化と、経営基盤の安定化、財務体質の健全化を促進する戦略のもと、収益性の高い事業、効率の良い事業へ経営資源を集中してまいりました。具体的には「フィービジネス及びリフォームの強化」戦略が奏功し、流通事業、リフォーム事業、並びに不動産取引派生事業の収益性が高まり、当該事業群の売上増加に伴う売上総利益の増加が、各種利益の増加要因となっております。

また、財務体質の強化・改善を図るため、一時的な事業縮小を実施してきた開発分譲事業におきましても、平成24年12月期に販売を計画しておりましたビル1棟の販売が当連結会計年度に前倒しで実施で

きたこと、棚卸資産及び有利子負債の圧縮が進んだことで、戸建開発分譲の新規プロジェクトを再開したことなどから、事業セグメントとしての利益率が改善し、売上総利益をはじめ各種利益の増加に寄与いたしました。しかしながら、販売が長期化しております既存販売物件につきましては、当初計画した販売ペースを下回ったこと、当社グループの戦略に沿った新規の土地（中・小規模の戸建開発用土地）仕入れが第3四半期以降になって本格化し始めたことなどから、連結業績全体としての売上高を押し下げる要因となりました。

なお、次項にて詳細をご説明させていただきますが、当連結会計年度末において繰延税金資産を65百万円計上したことにより、当期純利益は同額増加いたしました。

この結果、売上高につきましては前回発表予想を890百万円下回り3,045百万円（前期比17.3%増）に留まる見込みであるものの、営業利益は19百万円増加して247百万円（前期比46.9%増）に、経常利益は19百万円増加して195百万円（前期比92.5%増）に、当期純利益は90百万円増加して248百万円（前期比176.9%増）となる見込みであり、収益面の改善は計画を上回りました。

## ②個別業績

なお、個別業績予想におきましても、各種利益における増加の要因は、連結業績の修正と同様の理由により修正を行っております。

売上高の増加要因におきましては、開発分譲事業において平成24年12月期に販売を計画していたビル1棟の販売が当事業年度に前倒しで実施できたことが、販売が長期化している既存販売物件の当初計画に対する遅れをカバーしたことによっております。

## 3. 繰延税金資産の計上について

当社グループは、2期連続で収益性が向上したこと、利益の積上げによる自己資本の増強や有利子負債の減少などにより財務体質の強化・健全性が促進したことから、安定した経営基盤が構築できたものと判断し、過年度に発生した税務上の繰越欠損金に対する回収の可能性を鑑み、当連結会計年度末において65百万円の繰延税金資産を計上することといたしました。

## 4. 配当予想の修正

	年間配当金		
	第2四半期末	期 末	年 間
前回発表予想 (平成23年2月18日)	00円00銭	1,400円00銭	1,400円00銭
今回修正予想	—	1,650円00銭	1,650円00銭
当期実績	00円00銭		
(ご参考) 前期実績 (平成22年12月期)	00円00銭	00円00銭	00円00銭

## 5. 配当予想修正の理由

当社は、企業価値の最大化に向け、将来の事業拡大及び企業体質の強化のため内部留保の充実に努めるとともに、株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要な政策の一つと考え、業績に連動した配当を実施してまいることが基本方針としております。

この方針に基づき、平成23年12月期の業績が好調に推移し、当期純利益が前回公表の数値を上回ったことを反映して、1株当たりの配当額を250円増配し、1,650円に修正するものであります。

以上

ご注意：上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成しております。  
 実際の実績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。